

三人の姉妹 (イギリス)

昔むかし、あるところに、まずしい年寄りの夫婦が住んでいました。ふたりには、むすめが三人ありました。

夫婦がなくなり、ふた夏がすぎたころ、赤い外套を着たおばあさんがむすめたちのところにやって来て、

「お茶を一杯くれないかい」といいました。上のむすめは、

「ごめんなさい。わたしたちには、自分たちのものさえ十分でないんです」といって、ことわりました。するとおばあさんは、

「わたしは、あなたのからだをしばることはできないが、頭と目だけは、しばることができるんだよ」といって、行ってしまいました。

ある日、上のむすめがいきました。

「わたし、どこかへ仕事をさがしに行ってくるわ。もしうちの前の泉の水がかれて、ひしやくに血がついていたら、わたしに何か悪いことが起こったしるしだから、すぐに、さがしに来てね」

そうして、上のむすめは、出かけていきました。

やがてむすめは、悪魔も笛をふかず、にわとりも鳴いたことのないところまでやって来ました。夜になると、むこうから、赤いチョッキを着た男がやって来ました。男は、むすめが口を開くよりさきに、

「おまえさん、仕事をさがしているのかね」とききました。

「ええ」とむすめが答えると、男は丘を指さして、

「そっちへ上っていけば、仕事が見つかるよ」といって、丘への門を開けました。

むすめは、丘を上っていきました。道のあちらこちらに、小さな白い石がありました。とつぜんひとつの石がさげびました。

「立ちどまって、こつちを見てごらん」

むすめは立ちどまってその石を見ました。そのとたん、むすめはぼうつとなつて、白い小石に変えられてしまいました。むすめは、頭と目をしばられたばかりでなく、からだもしばられてしまったのです。

家では、妹たちが毎日、泉の水とひしゃくに気をつけていました。

ある朝、二番目のむすめが起きて戸を開けると、泉の水がすっかりかれて、ひしやくに血がついていました。

「姉さんに、何か悪いことが起こったんだ」

むすめは妹をよびました。すると、泉の水はまた流れはじめ、ひしやくももどおりにかがやきはじめました。二番目のむすめは、妹にいいました。

「これから、姉さんをさがしに行くわ。もし泉の水がかれて、ひしやくに血がついていたら、わたしに何か悪いことが起こったしるしだから、すぐにさがしに来てね」

そして、姉さんをさがしにかけました。

二番目のむすめは、悪魔も笛をふかず、にわとりも鳴いたことのないところまでやって来ました。夜になると、赤いチョッキの男がやって来て、むすめが口を開くよりさきに、

「おまえさん、仕事をさがしているのかね」とききました。

「いいえ。姉さんをさがしているんです」

男は、丘を指さして、

「おまえさんの姉さんは、あっちのほうにいるよ。仕事を見つけて、いい暮らしくらしをしているよ」といいました。門が開けられ、むすめは丘を上っていきました。

少し行くと、小さな白い石が、

「立ちどまって、こつちを見てごらん」とさげびました。むすめは、立ちどまらないうで、そのまま進んでいきました。

「ごらん」と、ふたつめの石がさげびました。けれどもむすめは、そのまま進んでいきました。

「ほら、ごらん。あなたの姉さんがいるよ」と、三つめの石がさげびました。むすめは思わず立ちどまって、あたりを見まわしました。そのとたん、むすめはぼうっとなって、白い小石に変えられてしまいました。

末すえのむすめが、ある朝起きて戸を開けると、泉の水がすっかりかれて、ひしやくに血がついていました。むすめは、すぐに姉さんをさがしにかけました。

むすめは、悪魔も笛をふかず、にわとりも鳴いたことのないところまでやって来ました。

夜になると、赤いチョッキの男がやって来ました。むすめは、男が口を開くまえに、話しかけました。

「仕事をさがしているんです。ご存ぞんじありませんか」

男はびっくりしましたが、

「そっちへ上っていけば、仕事が見つかるよ」といって、門を開けました。むすめは上っていきました。しばらくすると、ひとつの白い石が、

「立ちどまって、こっちを見てごらん」とさげびました。むすめは、かまわず進んでいきました。

「ごらん」と、ふたつめの石がさげびました。

「ここだよ」と、三つめの石がいました。けれどもむすめは、そのまま進んでいきました。

「ごらん、あなたのふたりの姉さんがいるよ」と、もうひとつの石がいました。むすめは、

「そんなら、姉さんたちに、キスしてごらんなさいよ」といい返して、どんどん先へ進んでいきました。

とうとうまわりに白い小石がなくなり、赤い外套を着たおばあさんが立っていました。おばあさんは、むすめの前にひざまずいて、いいました。

「とうとうわたしを見つめましたね。ちいさなむすめさん」

「ええ、見つけたわ」

むすめがそういったとたん、魔法まほうがとけて、白い石はみな、人間のすがたになりました。ふたりの姉さんたちもものすがたになりました。おばあさんは、むすめに、宝物たからもののありかを教え、

「この王国の主人はあなたです。万事ばんじ、すきなようにおやりなさい」といいました。

むすめは、姉さんたちに金貨きんかのふくろをひとつずつわたし、家に送りかえました。そして、赤いチョッキの男と結婚けっこんし、ふたりは、今でも幸せに暮らしているということです。

原話：『ジプシーの民話―ウェルズ地方』庄司浅水訳／岩崎美術社

再話：村上郁